

Lifestyle Magazine for Capsules 1984 40th Anniversary



「らいつてーじ」が創刊されたのは1984年（昭和59年）。その時、世間では何が起こっていたのか。大学ではどのような生活が営まれていたのか。40年前を振り返ってみたら、この先に繋がる何かがあるかもしれません。（小海）

ニュースでみる、1984年

- 1.9 日経平均株価が初めて1万円を突破
- 1.18 三井三池有明鉱火災事故
- 1.23 日本初の実用放送衛星「ゆり2号a」打ち上げ
- 3.11 スタジオジブリ「風の谷のナウシカ」公開
- 3.18 江崎グリコ社長、誘拐される（グリコ・森永事件の始まり）
- 3-5月 エリマキトカゲ流行



- 4.1 三陸鉄道開業
- 4.10 俳優の長谷川一夫氏、冒険家の植村直己氏、国民栄誉賞受賞
- 4.26 米レーガン大統領、訪中
- 5.12 NHKが「ゆり2号a」による衛星放送開始
- 7.11 松山事件の再審公判で齋藤幸夫死刑囚に無罪判決 29年ぶりに釈放
- 7.28 ロサンゼルスオリンピック開幕（～8.12）
- 9.4 京都・大阪連続強盗殺人事件
- 9.14 長野県西部地震

◎バブル前夜

今年3月に日経平均株価が初めて4万円を突破したことは記憶に新しいですが、初めて1万円を突破したのは84年のことです。翌年のプラザ合意により一時円高不況となりましたが、株価は右肩上がりに上昇し、80年代後半にはバブル経済となりました。



◎ロサンゼルス

オリンピック

ソ連をはじめとする東欧諸国がボイコットした大会でした。前回のモスクワ大会では西側諸国がボイコットしており、まだまだ冷戦の影が濃く落ちていると感じられます。

それでも、当時としては史上最多の140の国と地域が参加しました。日本は柔道の山下泰祐や体操の具志堅幸司らの躍進により、合計10個の金メダル、8個の銀メダル、14個の銅メダルを獲得。

◎グリコ・森永事件

3月の江崎グリコ社長誘拐事件を皮切りに、脅迫、本社への放火などの事件が相次ぎました。「かい人21面相」を名乗る犯行グループからの脅迫は丸大食品、森永製菓など複数の企業に及び、青酸入りの菓子が近畿・中部を中心にスーパーにばら撒かれ、グリコや森永の菓子が売り場から消える事態にまで発展しました。世間を揺るがす一連の事件は翌年まで続き、警視庁広域重要指定事件に指定されるも犯人の逮捕には至らず、未解決のまま時効を迎えました。

京都大学新聞1919号
(1984年11月16日発行)より
京都大学新聞社提供

- 9.19 自民党本部、火炎放射され炎上、中核派が犯行声明
- 10.7 毒入りシールが貼られた森永の菓子10個が近畿・中部のスーパーに置かれる
柔道の山下泰祐氏、国民栄誉賞受賞
- 10.19 西明石駅寝台列車脱線事故
- 10.25 豪から寄贈のコアラが初来日



- 10.31 ガンジー印首相、暗殺される
- 11.1 第二次中曽根内閣発足
日銀、新札3種発行
- 12.19 香港主権返還の「中英共同宣言」に両国調印

◎ヒットチャート

オリコンCD売り上げランキング

1. もしも明日が… / わらべ
2. ワインレッドの心 / 安全地帯
3. Rock' n Rouge / 松田聖子
4. 涙のリクエスト / チェッカーズ
5. 哀しくてジェラシー / チェッカーズ
6. 十戒 (1984) / 中森明菜
7. 娘よ / 芦屋雁之助
8. 星屑のステージ / チェッカーズ
9. 北ウイング / 中森明菜
10. サザン・ウインド / 中森明菜



ランキングではほんの少ししか紹介できませんが、他には「薬師丸ひろ子」「五木ひろし」「小泉今日子」「アルフィー」といったアーティストが並びます。最近話題にあがった曲でいえば、昨年の紅白歌合戦で披露された「2億4千万の瞳 / 郷ひろみ」がリリースされたのがこの年でした。普段は令和ポップスしか聴かないあなた！ この機会に一度、昭和ポップスを聴いてみては？

◎第三セクターの 鉄道が登場

官民共同出資で運営される第三セクターとして、初めて運行を開始した鉄道が岩手県の三陸鉄道。財政難にあった国鉄に代わり、北リアス線、南リアス線を開業させました。現在、3月に開業した「ハピラインふくい」を加え41社が第三セクター方式で鉄道を運行しています。



国立印刷局HPより
<https://www.npb.go.jp/ja/intro/kihon/kako/index.html>
過去のお札については、こちらから

◎新札発行

2024年にもデザインが一新されることで注目のお札。財務省によると、主に偽造防止を目的としておよそ20年ごとにお札を変えているそう。40年前にも新札が発行されました。（上から一万円札：福沢諭吉、五千円札：新渡戸稲造、千円札：夏目漱石）
現行のお札は2004年に発行されたもの。ちなみに今年の新札発行は7月3日（水）です。見慣れたお顔がいなくなるのは寂しいですが、新しいお札とも仲良くしたいものです。



◎チキンナゲット発売

今やそれなしのマクドナルドなど、想像できないほど馴染み深いナゲットですが、発売は84年。アメリカではその4年前に発売されましたが、その製法は日本の天ぷらがヒントになっているそうです。ある種の逆輸入ですね。

次ページでは、当時を京大で過ごした西山先生のインタビューを掲載！

80年代の京大生はどのような生活を送っていたのか。40年前まさに京大生であり、京大の歴史も研究されている西山先生に、当時のことについてお話を伺いました。

インタビュー



西山伸教授

1983年、京都大学文学部入学。80年代を学生として京都で過ごす。博士課程を単位取得退学後、京都大学百年史の編纂に携わる。現在、京都大学大学文書館教授。

京大を選んだ理由

僕は神奈川県立高校の出身で、周りに関東の大学に進学するのが主流の中で、なぜ京大に行くのか、と当時はよく言われました。今みたいにインターネットやオープンキャンパスのような情報はなかった時代です。情報源は予備校や赤本でしたね。昔の赤本には大学の歴史なども載っていたので。

もともと文学部で歴史の研究をしたいと思っていたので、そのためには東大などよりも京大がいいかなと思いました。京大の文学部というブランド的なところを受験すること、格好良さもありましたね。それまで京都には修学旅行でしか来たことがなかったのですが、その時の京都の印象は悪くありませんでした。それからずっと京大です。大学院も、最初に助手として就職したのも。

京大にとっての80年代

80年代は今の大学に直接繋がっていくことが始まっていた時代です。当時はそんなこと分らなかつたですけどね。この話には前提があって、まず、60年代は全国で学生運動が盛んで、大学はその対処に手一杯だった。京大はそれが長引いて、収束に向かったのが70年代の終わりごろなんです。それから大学が、他のことを考える余裕が出てきました。

1つ目は情報化です。例えば、図書館のネットワーク。KULINEの元になったものが出来始めたのと、KUINSの整備が始まったのも同じ時期だったと思います。学生も使えましたが、図書館の場合遡及入力といって、それまでの蔵書の情報を全部データベースに落とし込んでいく作業が必要なので、目録として機能するのに数年

は必要でした。また、インターネットで大学の情報を公開するのは今では義務になっていますが、それが本格的に始まったのは90年代です。

2つ目には国際化があると思います。海外の大学との学術交流協定を結び始めたのがこの時期です。最初はパリ第七大学でした。それで、学生の交換を始めました。僕が学生の頃、専門の授業に出ると留学生はばらばらいましたし、大学院に入ると結構増えていったように感じました。韓国、中国、台湾が多かったですね。協定を世界中の大学と結んでいくと、京大は特に東南アジアとの関係が強いです。そこに常駐の事務所を置いたりして。少し余談かもしれないけれど、80年代に日本全体が景気が良くなって、経済力がどんどん上がっていくと世界が目にするんですよ。すると、海外の研究者も含めてそのルーツを探し出すわけで、1つ注目されたのが江戸時代。寺子屋があって教育水準が高いなどと言われて、江戸学なんてものができたりしました。僕は日本史の研究室にいたのですが、海外から近世史を研究しに来る留学生や研究者は、今思えば多かったですね。そういう、学問の流行りがありました。

大学を世の中に公開していく、学術成



文学部博物館(現在の総合博物館)
(京都大学大学文書館所蔵)



パリ第七大学との学術交流協定調印
(京都大学大学文書館所蔵)



本部構内の様子。教職員のものだけでなく学生の自動車も所狭しと停められている。
(京都大学大学文書館所蔵)

果を公開していくという動きも、本格的に始まったのは70年代の終わりから80年代にかけてです。それまで社会との接点を、実は大学はあまり持っていませんでした。そこで新たな取り組みとして市民に向けて公開講座を始めたり、博物館が出来たりしたのも僕が学生の時です。最初は文学部博物館といって、歴史的な文献史料や考古史料を展示していて、後に理系の史料も展示するようになりました。あの建物で気づくと思うんですけど、入口が東大路通に面しているんです。つまり、石垣を壊している。これは当時画期的なことと言われました。内側に開かれているのではなく、外側の社会に向けて開いているというメッセージなわけです。

もう1つ、80年代には実現しませんでした。京大が熱心にやっていたのは新キャンパスの問題です。吉田キャンパスが狭くなって、どうにか問題を解決しないといけない、と宇治に次ぐ第3のキャンパスを本格的に探し始めました。紆余曲折あって結局、桂に落ち着きましたがね。また、当時の教養部を改革して、今の総合人間学部や人間・環境学研究科に再編したのも、形になったのは90年代ですが、実質的に動いていたのは80年代です。

80年代に限った話ではないですが、2000年代にかけて大学の数が右肩上がりに増えていって、同時に進学率も上

がっていった。そうすると、大学がもう一部のエリートを養成するところじゃなくなってきたんですね。僕より昔の学生は放っておいてもそこそこ勉強して、そこそこ偉くなっていったと思うんです。おそらく、その雰囲気欠片が残っていたのは僕らの年代が最後。今はもう世の中に合わせて、大学が教育をしっかりしなくてはならない。京大も研究から教育へのシフトは厳しく言われるようになって、とても教育熱心になっていると思いますよ。

当時の生活の様子

僕は軟式野球同好会に所属していて、週3日朝練に行っていました。同好会ではあったけれど一生懸命練習をするところで、年2回のリーグ戦もあり、優勝すれば全国大会に行きました。2回生の時はキャプテンも務めていて、生活の中で一番時間を割いていたと思います。あと、それまで京都に縁がなかったので、来たばかりの頃は寺社仏閣を巡っていました。綺麗な庭など、景色のいいところは好きだったので、今でも印象に残っています。2回生になって車を運転するようになってからは、遠くに行ったりとか。今ほど観光客はいなかったから、回りやすかったですし。

住居については、僕はワンルームマンションに住んでいましたが当時は少数派

で、下宿屋に住んでいる人が圧倒的に多かったように思います。1人1部屋で、電話やトイレは共同みたいな。炊事場も共用だけれど、寮ではないから、互いに干渉はすることなく独立性は保たれていたそうです。

80年代の日本は景気が右肩上がりです。実感して生活は良くなっていきました。住むところは変わらないけど、持ち物がどんどん変わっていくような。例えば1人1台電話を引くようになったり、クーラーをつけるようになったり、車を持ち始める人もいました。僕自身も、兄のお下がりを持っていましたよ。車に対する価値観も今は違うかもしれない。今の人は車に執着はしていないように思いますが、自由に移動できて、友達とドライブしたり、デートしたり、ということは理屈抜きにやってみたくていう風潮でした。駐車場の無茶ぶりはすごかったです。キャンパスの中が停め放題。教職員はもちろんそうですが、学生も自動車で来るんですよ。僕は一乗寺に住んでいたんですけど、時々車で通学してました。大学からその頃少しずつ規制が入るようになりましたが、路上にも勝手に停めていて、世の中全体がそんな感じでした。就職の話でいうと、文学部は元々教師になるか、研究者になるか、就職するならマスコミ関係が多かったのですが、僕が卒業する頃には証券会社などにいく人が出てきた。当時は証券会社が花

形だったんですよ。それもバブリーなところに行く人も出てくるみたい。そういう時代でした。

長期休みは、これは今と変わらないけれど、帰省するとか、読書するなどしてました。海外旅行に行く人はほとんどいなかった。海外はまだ遠かったですね。ちょうど卒業旅行で、最後の2月が終わってから入社式までに行くというのが始まったころだと思います。聞いた範囲で、バイクに乗っている人で、舞鶴からフェリーに乗って北海道を一周するような人はいました。海外はバブルになれば、さほど珍しいものではなくなってくるのではないのでしょうか。

(京大百年史写真集を指差しながら)今の附属図書館の建物ができたのが、83年ですね。キャンパスの建物に年代ごとの流行があって、図書館の茶色のタイル張りが80年代の建物ですね。それより前のものだと中央食堂、総合研究8号館。あのコンクリートの打ちっばなしが60年代、70年代の流行で、80年代はその効率重視の素っ気なさから離れた感じですよ。

生協にレコードショップがあったんです。僕はステレオがなかったので、ラジカセを使ってましたが、中には音楽好きがいて、部屋にステレオ一式持っている。その人の家に音楽好きが集まるとかね。ルネも随分変わりましたね。エスポワールという喫茶店があって、そこへよく行ってました。クラブが朝練だったので、終わったら朝ごはんを食べに行きました。本屋は時計台の下にあったんで



合格電報の受付の様子。京大新聞社が請け負っていた。(京都大学大学文書館所蔵)



教養部（現在の吉田南構内）の自転車置き場。この光景は変わらないらしい。(京都大学大学文書館所蔵)

すよ。

合格電報というのもありましたね。今は合格発表はネットで見ますが、僕らの時は紙の掲示しかないので、遠方の方がわざわざ来なくてもいいように、代わりに確認してあげるサービスがありました。入試の日を受験番号と名前を聞いて、受かっているかを教えてあげるわけです。どこの大学でもやって、合格した時の文句が大学によって個性がありました。サクラサクは普通ですが、色々あるのは昔話題になっていました。

印象に残っていること

学生時代は、大学の中でこういう立場だからあれしなさいとかがなくて、何も言われない。干渉されるというのはほぼありませんでした。授業も、出なきゃいけないけど、出ないからといって何も言われない。特に教養部の授業では、中には来なくていいという先生もいましたね。今教員の立場になってみると、さすがにまずかったように思いますけど、もう1つ印象に残っているのは寮の問題です。最近吉田寮の一審の結果が出ましたが、当時もとても揉めていました。学生で逮捕者が出て大騒ぎになって、機動隊がいっぱい来たこともありましたよ。寮以外でも学生運動が若干残っていたので、授業粉碎を唱えて全員が集まる語学の授業を狙って演説しに来る。先生が来たら追い出して占拠を続ける、というようなことは何回かありました。3回生になっ

て専門科目に入るとそういうことはなくなりましたがね。僕のようなんびりした学生には無縁でしたが、すごいところだと思いました。規模は今とは比べものにならないです。

京大生へ

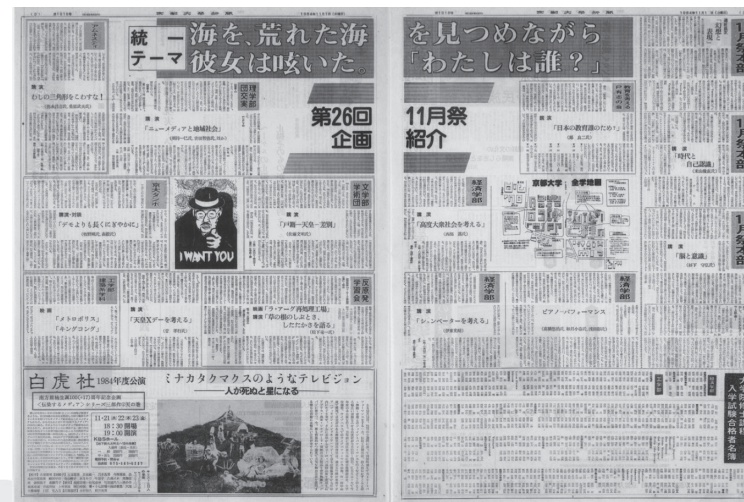
やはり勉強してほしい！ 僕らの頃は、大学はもちろん勉強するところではあるけれど、本当の友人ができるのは学生時代だ、ということを書いていました。仕事を始めてからだと利害関係が付きまとうから、本当の友人は出来づらいと。僕は否定はしないけれど、仕事を始めてから付き合った人はたくさんいますし、やはり大学は勉強する場なんです。そのためのツールは揃っています。大学を出ちゃうとこんなことは出来ないです。大学教員も、教育を含めて色々な仕事があるので、実はそんなに勉強は出来ません。でも学生さんは出来ます。いろんな専門を持っている人がいて、聞こうと思えばいつでも聞ける。卒業したらこんなことは出来ない。だから今のうちに、勉強してほしいと思います。

——貴重なお話をありがとうございました。

当時の光景

★第26回11月祭開催！

世相を鋭く描き出す？ NFの名物とも言える第26回の統一テーマは「海を、荒れた海を見つめながら 彼女は呟いた『わたしは誰？』」当時の京大生は自己に迷い、個性を探し求めていたのでしょうか？ そして今生きる私たちからしても他人事では済まされないような意味を感じます。あなたはどのように考察しますか？



京都大学新聞1918号（1984年11月1日発行）より
京都大学新聞社提供

★ピカピカの図書館！

京大生なら全員がお世話になるであろう、附属図書館。1897年（明治30年）に設置され、その2年後に閲覧室が開室しました。戦後もない1948年に2代目の建物が竣工、そして現在の3代目の建物が1983年に竣工しました。今や当たり前前の閲覧システムが導入され、業務のコンピュータ化が始まったのがその翌年のことです。京大に在籍する多くの人たちの研究活動を支えています。



1983年（昭和58年）竣工当時の図書館
(京都大学附属図書館提供)

以上、いかがでしたでしょうか？ 40年という時の流れを感じ、読者のみなさまの何か発見に繋がることがあれば幸いです。

末尾になりますが、インタビューにご協力いただいた西山先生、画像を提供くださった京都大学大学文書館様、京都大学新聞社様、京都大学附属図書館様へ、この場を借りて感謝を申し上げます。

6月号の40周年記事は……

復刻！ 定番記事

40チャレンジ!!

40km 歩いてみた

素敵空間

下宿のこだわり、のぞいちゃいます

お楽しみに！